



八小コミュニティ・スクールだより 第1号

武蔵村山市立第八小学校

平成24年 9月 5日

<http://musashimurayama.ed.jp/mmced8s/>

第八小学校は、今年度よりコミュニティ・スクールとしての歩みを始めました。については、年3回「コミュニティ・スクールだより」を皆様にお届けいたします。(今年度は、やや変則的な発行になります。)また、運営の中核となる学校運営協議会は、4/18、5/17、6/18、7/10、8/10の、計4回行いました。協議会の概要は、次号でお知らせいたします。

第八小学校学校運営協議会への思い

学校運営協議会会長 細谷和子

第八小学校学校運営協議会の協議会委員は、武蔵村山市教育委員会の委嘱を受け、今後2年間にわたり第八小学校の応援団として叡智を出し合って活動をして参ります。

《 思えば 思われる 》 ふれっチャ・クラブ活動

第八小学校では、八小で学ぶ子どもたちのために、校長先生を中心として全ての先生方が、健やかな成長と学力向上のために、総力を上げて日々、精力的にご尽力くださっています。

一方、児童と、地域住民と、都立武蔵村山高校生とで織りなす異年齢、異世代間での交流「思えば思われる」という人と人が関わるふれっチャタイム活動があります。

ふれっチャタイム・クラブ活動では、「囲碁や将棋、手芸、フォークダンス」他の講座に、地域の方々が講師として、高校生はアシスタントとして活動しています。学校の授業では学ぶ機会の無いこのような講座がキッカケとなり、子どもの未来の可能性のドアが開けられる事も有るのではないかと大いに期待しています。第八小学校においては、「学校」と「地域」と「高等学校」との、協働活動が長年にわたり活発に実施されています。

「思えば 思われる」に「愛」を加えた《 双思総愛 》

「双思」は、学校と地域・保護者との双方向の思いを意図とし、「総愛」の総の漢字の成り立ちでは、糸の部分は糸を束ねた形でまとまることを表し、糸偏の右側の部分は、のうみそと心臓の形を表しており、のうみそと心は、色々な考えや思いの集まる所です。会長をお引き受け致すにあたり思いを言葉に反映させた造語です。「双思総愛」を合言葉に第八小学校学校運営協議会を構築していきたいと願っています。

学校運営協議会委員一同は、「学校と子どもたちのため」にの思いを心に刻み、学校が抱える多種多様な課題等について共有し、常に真摯な協議を行い、時には激辛の審議をも行えるような学校運営協議会を目指していきたいと考えております。

地域に暮らす私たち「大人」の全ての方々もかつては、各々の古里にて夢を育んだ思い出の場所、「学校」をおもちです。その学校で今、地域の財産でありますわが子が、わが孫が、そして地域の子どもたちが学んでいる第八小学校に足をお運びいただけませんか。

地域の皆様方が積み重ねてこられました様々な経験や、長年培われてこられました技術や特技、それからご趣味やスポーツなどの交流活動で共に汗を流したり文化活動の創出やご提案、支援活動などをなさったり子どもたちの未来につながる「夢の扉」にノックして戴きませんか。多くの子どもたちが第八小でお待ちいたしております。

第八小学校学校運営協議会では、学校が目指す地域に開かれた学校づくりを共に目指して活動をして参りたいと思っています。

広く地域の皆様方や保護者の方々のご支援、ご協力を心からお願い申し上げます。

コミュニティ・スクールの開校にあたって

武蔵村山市立第八小学校 校長 牧 一彦

本校は、この4月1日より、いよいよコミュニティ・スクールとしての第一歩を踏み出しました。昨年度までの設立準備委員会の委員の皆様のご協力により、過日、第1回目の学校運営協議会を開催できましたことに、深く感謝申し上げます。

本校は、平成21年度から完全午前5時間制を始めました。この取り組みは全国的にもなかなか類を見ない特別なカリキュラム編成で、放課後に時間的な余裕を生み出す仕組みになっています。これによって生まれた、放課後の時間と空間、人材のゆとりを生かしながら、ふれっチャタイム、ホップステップジャンプテストをスタートさせ、地域や保護者の方々のご協力のもと、着々とコミュニティ・スクール化への準備を進めてきました。

平成21年度には三ツ藤見守り隊（子ども安全ボランティア）が編成され、子どもたちの登下校の見守りしてくださるシステムが誕生しました。また、平成23年度には新たに八小土曜算数塾を開設し、算数がわからない、算数が苦手という子を減らす取り組みを始めました。

これらの取り組みは全て、従前の学校には見られない、新たな学びの仕組みです。ひと昔前までの学校では、子どもを指導するのは教員だけでした。しかし、本校は違います。学校の教職員以外にも、地域に住む保護者、大人、中学生、高校生、大学生、ご高齢の方、障害のある方など、この地域に住まう全ての人々が、子どもたちの貴重な先生なのです。子どもたちは、地域の方々から、様々な技能や知識を学びます。地域の伝統文化を学びます。また、様々な方々とのふれあいを通じて、生き方を学びます。礼儀作法やあいさつのしかたを学びます。人との関わり方を学びます。すなわち、これまでの学校では、学ぶことのできなかつた様々なことを、体験やふれあい、学習を通して学ぶことができるのです。

そして、これらの取り組みはすべて、地域・保護者の方々のご協力により、成り立っています。このコミュニティ・スクールを支える学校運営協議会委員の皆様のお力添えにより、それぞれの方が所属されている組織が、「子どもたちの人間力を一層高めるための核となっている」と言っても過言ではありません。本当にありがとうございます。

この運営協議会を立ち上げるに当たり、これらの組織が、より一層、円滑に運営されること、また委員の皆様のごアイデアにより、新たな組織や新たな学びが生み出されること、そしてそのことを通じて、本校の子どもたちの学力が向上することはもちろん、人との関わり方や、礼儀を身に付け、人間的に大きく成長していくことを切に願っております。

そして、子どもたちが八小を卒業した後、何年先になるかわかりませんが、いつしかまたこの地域に戻り、今度は自分たちの子どもたちのために、この地域を支える人になってくれれば、こんなに素晴らしいことはありません。「思えば思われる」を合い言葉に、子どもたちを育てていきたいと考えております。今後ともお力添えをくださいますよう、心よりお願い申し上げます。

【委員紹介】(順不同・敬称略)

委員長	細谷 和子	学校評議委員	委員	広沢 猛	残堀自治会 会長
副委員長	有馬 光彦	関係者評価委員	委員	丸山 和恵	学校評議委員
委員	井上 一弘	学校評議委員	委員	渡辺 隆浩	学校評議委員
委員	加羽澤範明	伊奈平自治会 副会長	委員	星谷 忠信	P T A会長
委員	菊澤 良雄	シルバーポリス	委員	伊藤 舜一	創価大学 非常勤講師
委員	佐藤みさ子	民生・児童委員	委員	清水 孝二	都立武蔵村山高校校長
委員	杉山 薫	図書ボランティア	委員	稲川 亨	副校長(事務局)
委員	高橋 猛	あかつきコロニー 常務理事	委員	大谷 文彦	主幹教諭(事務局)
委員	永井ひとみ	学校評議委員	委員	押見 正人	教務主任(事務局)